

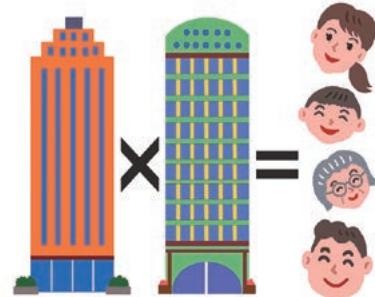


鴻池 忠彦

KONOIKE Tadahiko

鴻池運輸
代表取締役会長兼社長執行役員

企業価値の掛け算で、 関西に「幸せ」の恩返しを



この8月に稻盛和夫さんが逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。私もかつて盛和塾の塾生として稻盛さんの薰陶を受けた一人でした。今でこそ「幸福」を起点とする経営思想が広く説かれていますが、稻盛さんはご自身の人生で磨き上げ、探求し続けた「フィロソフィ」を通して、「何よりも従業員に幸せな人生を送ってほしい」という想いを一貫して訴えておられました。私自身も、近年は「会社の目的は、社員の幸せの最大化」にあると、心からその想いを社員に伝えています。

さて、弊社は1880(明治13)年に大阪の北傳法村(現在の大阪市此花区)で創業し、今年で143年目を迎えました。社名は「運輸」となっていますが、今日では物流事業の売り上げは全体の約5割で、そのほかは鉄鋼、食品、化学などの製造業の生産工程に関係した業務や、空港、医療などの重要な社会インフラサービス業の現場業務といった請負事業が占めています。

創業者の鴻池忠治郎は、たびたびの氾濫により大阪の発展を妨げていた淀川の開削工事を明治政府から請負い、幾多の艱難を克服して完遂しました。これを機に業容を拡大し、以来、弊社は関西から全国、そして海外へと、成長を遂げてきました。

このような歴史のなかで弊社が最も大切にしてきたのは「人」と「絆」です。稻盛さんの教えにもあるとおり、社員が「人」として幸せを感じられない会社は、お客様や社会に幸せをお届けできるはずもなく、存在価値はありません。社員の幸せの実現には、会社が提供する「価値を最大化」し、それによって「適正な利益」を生み出すことが必要不可欠です。そして、その利益を処遇の向上、安全安心な労働環境の整備、成長を実感できる人材育成、充実した

福利厚生、といった形でしっかり還元することが、価値創造の源泉である社員の幸せ、会社の成長やサステナビリティの実現につながるのです。「価値の最大化」には既存価値の拡大だけではなく、価値同士の掛け合わせや、新たな価値との組み合わせによるほかにないサービスの創出が必要です。

先般、弊社は「2030年ビジョン」を策定し、「技術で、人が、高みを目指す」というメッセージを掲げました。このメッセージには、先端技術という新たな価値と、現場の暗黙知(匠の技)という既存の価値を掛け合わせ、主役となる「人」が創造性を高められる豊かな働き方を体現する会社になろう、という想いを込めています。

VUCAといわれる現代社会においては、この「価値の掛け算」はより一層重要なファクターになるとを考えます。関経連においても、関西の企業が手を取り合い、各企業の強み(価値)を生かし合うことで一企業だけでは生み出せない価値を創造し、関西経済と地域社会、そこに暮らす方々にその価値を還元し、関西から日本を元気にしていくことが重要だと考えています。私も国土・広域基盤委員会の副委員長としての活動を通じ、微力ながら取り組んでまいります。

前述のとおり、弊社には関西の地盤に支えられながら地域経済の発展に寄与した創業者の想いを受け継ぎ、成長してきた歴史があります。私自身、幼少期から大阪で育ったこともあり関西への想いは強く、関西を起点に日本全国を活性化できる一大イベントである2025年大阪・関西万博に対しても大きな期待があります。夢洲地区の物流課題の対策・解決に向け、関係者が垣根を越えて連携し、「ワクワクする関西」のために必ず成功させたいと願っています。

(談)